



着 | 任 | 挨 | 拶



人間形成教育センター
山西 敏博 教授

4月より人間形成教育センターにて着任いたしました。言語社会学を筆頭に、TestingやENIE（新聞活用教育：時事英語）、CLIL（内容言語統合学習）を専門としながら、授業は英語科目全般を担当しています。【日本列島徒歩縦断】を行いつつ、海外は35ヶ国・地域を放浪し、各種心理カウンセリング資格を有しています。「世界の人々と生命をつなぐための言語」—英語「で」環境学・経営学を身につけるための基礎力と対話力を学んでいきましょう。全国各地やアジア諸国から集った、志の高い皆さんとお会いできた事を嬉しく思います。素晴らしい自然環境に溢れるこの鳥取の大地で、皆さんと共にさらに成長していきたいと願っています。



人間形成教育センター
桑本 裕二 教授

本年4月に人間形成教育センターに着任いたしました。本学では英語の授業を担当します。英語を使って必要な情報を理解したり、思っていることを自由に表現できるようになるには、まずしっかりと文法や構文について知ることだと思います。「慣れさえすればどうにかなる」という考えがどうも教える側の人にも横行していますが、何も教えないまま英語で授業をするなどというのは全くおかしな教育です。

3月までは秋田に住んでいましたが、高校までは倉吉で生活していました。赴任して間もない頃、周りの人たちに「ここ（鳥取）は冬が寒いですよ、雪が降るし…」などと言われて返答に困ったものです。地元の風土や環境を生かした教育ができればと思っています。



環境学部
笠木 哲也 准教授

本年4月に環境学部に着任いたしました。幼少を広島で過ごした後、学校や仕事の都合で東京、宇都宮、札幌、金沢と移り住み、この度ようやく中国地方に戻ってきました。私の専門は植物生態学で、植物だけでなく、植物と関わる昆虫や動物も研究対象にします。日本は南北に長く、しかも太平洋側と日本海側で気候が全く違うので、地域によって自然の様子が大きく異なります。鳥取の自然環境も私のこれまでのフィールドとはかなり違うので、大学周辺の林を歩いても、山に登っても「楽しい」発見の連続です。教育・研究では科学的方法論や調査技術の指導を重視しますが、学生には「楽しい」という気持ちを持ってもらえるようにしたいと思っています。



環境学部
山本 敦史 講師

はじめまして。この4月に環境学部に着任いたしました山本敦史です。私たち人間は様々な化学物質を新しく作り出し、暮らしを多様で便利なものにしてきました。その結果、今では人間以外の生物も私たちの作り出した化学物質に囲まれて暮らしています。私は分析化学が専門で、これまで環境中の微量化学物質についての研究を行ってきました。水や大気環境、暮らしの回りに見られる身近な化学物質は、適正な物質循環・環境と人々のつながりを考える上でよい材料になると考えています。本学ではまもなく新しい実験棟が稼働予定であり、私もそちらにて新しい教育・研究活動を始められることを嬉しく思っています。



環境学部
徳田 悠希 講師

本年4月に環境学部に着任いたしました。私の専門は地質学・古生物学で、化石や地層を研究し、大地に刻まれた地球や生物の歴史を読み解いています。本学では環境への意識が高い学生が数多く学ばれていますが、現在の自然環境の成り立ちを理解し、未来の環境を予測するためには、過去を知ることが非常に重要となります。今後は現在の鳥取県や日本海の自然環境がどのような歴史をたどり成り立ってきたのかを学生とともに研究していきたいと思っております。本学での教育と研究に貢献できるよう精一杯努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。



地域イノベーション
研究センター
太田 太郎
特命准教授

今年4月より地域イノベーション研究センターの特命准教授に着任しました。3月までは鳥取県職員として県庁水産課、湯梨浜町にある県の栽培漁業センター、境港市にある県の水産試験場で計14年間勤務して参りました。経歴からもお分かりいただけるように、私の専門は「海」、「魚」、「水産業」です。

鳥取県の最大の魅力は、「豊かな自然と産業のつながり」だと感じています。この魅力の一つでも多く学生の皆さんと共有していきたいと思っています。地域イノベーション研究センターは地域と学生の皆さんを繋ぐ窓口です。地域を知りたい、地域で活動したいという方は是非お気軽に地域イノベーション研究センターにお越しください。